

再評価結果（平成16年度事業中止箇所）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課
担当課長名：高松 泰

事業名	一般道道 板谷路之台線 <small>いたやぶきのだい</small>		事業区分	地方道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道中川郡中川町字板谷 <small>なかがわ なかがわ いたや</small> 至：北海道雨竜郡幌加内町北海道大学付属演習林 <small>うりゅう ぼろかない ほんかいどうだいがくふぞくえんしゅうりん</small>				延長	29.8km
事業概要	板谷路之台線は中川町から、幌加内町に至る延長約35kmの一般道道である。このうち、中川町字板谷から、幌加内町字路之台までの延長約30kmが開発道路に指定されている。本路線の整備により、上川北部地域と北空知地域を結び、農林産品の流通支援、プロジェクト支援等に寄与する。					
昭和55年度事業化	H - 年度都市計画決定	昭和55年度用地着手	昭和55年度工事着手			
全体事業費	約140億円		事業進捗率	52%	供用済延長	15.7km
計画交通量	580台/日					
費用対効果分析結果	B / C (事業全体) 0.4 (残事業) 1.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 44/127億円 事業費：36/111億円 維持管理費：8/16億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 51/51億円 走行時間短縮便益：48/48億円 走行費用減少便益：3/3億円 交通事故減少便益：0/0億円	基準年 平成15年		
感度分析の結果	事業全体について感度分析を実施 交通量変動：B/C = 0.4 (交通量+10%) B/C = 0.4 (交通量-10%) 事業費変動：B/C = 0.4 (事業費+10%) B/C = 0.4 (事業費-10%) 事業期間変動：B/C = 0.4 (事業期間+20%) B/C = 0.5 (事業期間-20%)					
事業の効果等	・国土・地域ネットワークの構築（現道等における交通不能区間を解消する） ・物流効率化の支援（農林産品の流通の利便性向上が見込まれる）					
関係する地方公共団体等の意見	沿線自治体からは、路線の整備要望が出されているが、事業の厳しい情勢に一定の理解が示されている。また、北海道からは「当路線の事業執行上の課題及び現在の事業進捗状況等を勘案すると事業の中止もやむを得ない」旨の意見が出されている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成15年度までに名寄バイパスが、約12km供用している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在まで15.7kmを北海道に引き継いでいる。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	残区間は、複数の大規模構造物の整備が必要であること、冬期の積雪により施工期間が限定されること、道路沿線に地すべりや崩壊地形が各所にみられること等を勘案すると、全線の供用は最遅でも平成20年代後半以降となる。					
施設の構造や工法の変更等	1.5車線の整備や既存林道の活用等を行っても、他の路線に比べ走行速度が低下するため便益の増加は望めず、有効なネットワーク形成とはならない。					
対応方針	事業中止 今後、本路線周辺道路ネットワーク機能の充実に関する検討を進めるほか、これまで整備が進められてきた施設について有効に活用し、適切な公物管理を行う必要があり、供用に向け本来管理者である北海道へ速やかに移管する。					
対応方針決定の理由	事業の投資効果、事業の進捗の見込み、代替案立案の可能性及び関係地方公共団体等の意見を総合的に判断した。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。